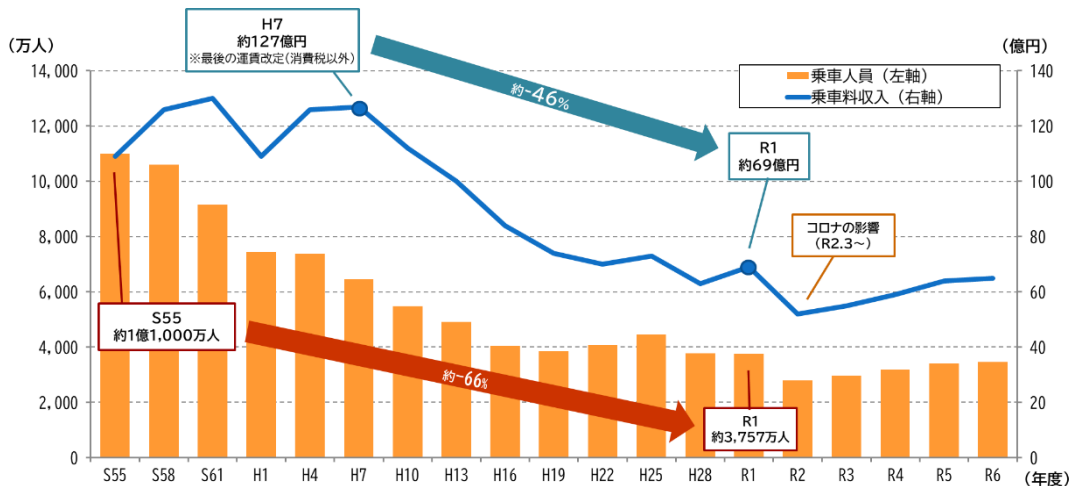




**Q** 市バスの乗車人員や乗車料収入は、どのように推移してきたの？

**A** 下のグラフのとおり、乗客人員・乗車料収入ともに**減少傾向が続いています**。



かなり減っているんだね。

ピークの昭和55年度には、1年間で延べ1億1千万人のご利用がありました。その後は減少傾向で、令和元年度時点でピーク時の約3分の1になりました。また、乗車料収入についても、(消費税率改定を除いて)最後の運賃改定があった平成7年度(平成7年3月改定)と比べて半減しています。



自動車が増えたり地下鉄もできたけど、バスの利用者はそんなに減ってしまったんだ…。令和2年度のコロナの影響が大きかったと思うけど、今後はどうなるんだろう？

ここ数年はコロナ禍の落ち込みから増加傾向にあるのですが、**コロナ禍前の水準までは回復しない状況が続いています**。今後は人口減少が進んで、市バスの乗車人員もまた減少していくと予想しています。



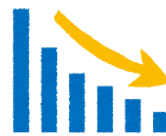
## 人口減少

バス利用の多い  
地下鉄沿線外

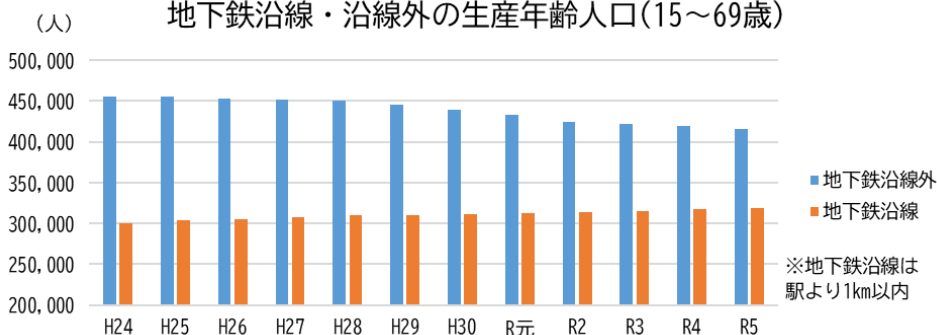
特に生産年齢人口  
(15～69歳)の減少

通勤・通学利用者の  
減少

バス乗車人員の減少



地下鉄沿線・沿線外の実年齢人口(15～69歳)



確かにニュースでも人口減少の話をよく耳にするね。このまま乗車人員が減り続けると収入も減っていくから、ますます経営が厳しくなるよね。

たくさんのお客さまに1回でも多く市バスをご利用いただき、乗車料収入を増やすことが大切なので、交通局では引き続き利便性の向上と利用促進の取組みを進めていきます。

しかし、コロナ禍を経て厳しさを増す経営環境や今後の人口減少局面を考えると、市バスを市民の皆さまの身近な交通手段として残していくためには、運賃改定などの抜本的な経営改善策が必要です。



次回は、今後予定している経営改善の取組みについてご紹介します。



### まとめ

- 市バスの乗車人員は、ピークの昭和55年度から令和元年度までに約3分の1まで減少し、乗車料収入も最後の実質的な運賃改定が行われた平成7年度から約2分の1まで減少。
- 令和元年度末頃から新型コロナウイルス感染症の影響により乗車人員が急激に減少。令和6年度決算においても、コロナ禍前の水準までは回復しない状況。
- 人口減少により、主に通勤・通学利用者の減少が予想されるため、市バスの乗車人員は今後も減少傾向と見込まれる。利用促進の取り組みはもとより、抜本的な経営改善策が必要。